

RSNがパチンコ依存症フォーラムを開催 業界からは全日遊連の研究会委員を務める力武一郎氏が参加

ばちんこ・パチスロ遊技に関する依存及び依存関連問題解決の支援を目的とする「リカバリーサポート・ネットワーク（RSN）」が8月19日、都内の大田区産業プラザにおいて「第1回ばちんこ依存症を考える」フォーラムを開催した。RSNは全日遊連の支援を受けて06年4月に開設。電話相談を中心に、依存症に関する問い合わせや回復施設の紹介を行っている。

フォーラムには依存症者同士のミーティングを中心にした回復プログラムを実施する入所施設「ワンデー・ポート」が共催として参加したほか、全日遊連

「ばちんこ依存問題研究会」の委員を務める力武一郎大分県遊協理事がシンポジウムのパネラーとしてホール側の取り組みなどを説明した。

フォーラムでは昨年度989件の電話相談を受けたRSNの活動実績の報告、ワンデーサポートの活動紹介などのほか、シンポジウムを開催。司会役をRSNの相談統括責任者兼運営委員の安高真弓氏が務め、精神科医の伊波真理雄氏、司法書士の稲村厚氏、ワンデーポートの中村努施設長、力武一郎理事がパネラーとして参加した。

この中で、「依存症は医学的な治療では回復しない」（伊波氏）、「依存症者の多くが多額の負債を抱えるが、相談を受けた司法書士は単なる多重債務問題として処理してしまう」（稲村氏）などの問題点を指摘。依存症者をワンデーポートなどの回復施設に導けるかが重要で、いかに啓蒙を進めるかが今後の課題となるとされた。

力武理事は、「体感としては来店客の15%が依存症の問題を抱えているのでは」と現場から



力武一郎氏

見た認識を示したほか、業界の取り組みについて報告。「多くの企業の賛同を得て、ホール内にRSNやワンデーポートの連絡先を掲載した啓蒙ポスターを掲示している。新しいポスターを配布した際には相談件数が増えるなど、一定の効果を示している」と語った。依存症の要因と指摘される高射幸性については「1円ばちんこを導入する店舗も増えている」と理解を求めた。

また、業界関係者から寄せられた「儲かっているメーカーに対策資金の拠出を求めているか」という質問に対し、「RSNが立ち上がった1年が経ち、活動が軌道に乗ってきたので、メーカーに声を掛けることは当然視野に入れている。ただし、メーカーも遊べる機種を発表するなど変わりつつある。単に資金を出させるというのではなく、相互理解をした上で進めていきたい」との意向を示した。

